マッキーにも手伝ってもらいました！

このテストでは、フィーリングのほか、回転数、水温や油温、吸気圧、スロットル開度、インジェクター開弁率／時間、点火時期などのデータをネコ・コーポレーションさんのTDL700を取り付けて集めることにした。

この企画にジョイントで協力してくれるHKS関西の公爵向井さん、同店のコンピューターのエキスパート島田くん、OPT2サイトー、TIの主マッキー牧原がサーキットに集合、さっそく実走行テストに臨んだ。

走ってみてのフィーリングは、まず第一に「フロントが重い！」だ。アンダーが強くてちっとも曲がってくれない。コーナーではどこまでいってもアクセルを踏めないって感じだ。

サスペンションは、サーキット・スペックの（というのも、サーキットテスト用の広報車はちょっと固いスプリングが入っていたり、ちょっと減衰力の高いショックがついていたりするものなのだ）はずなんだけど、やはり重量バランスの悪さは隠せない。

サスペンションのストロークなんかは、けっこういい感じなので、あまり車高を落としてストロークをなくすようなことはしたくない。極端に固いスプリングを入れたり、ストロークがなくなってくると、本格的に曲がらないクルマになってしまいそうだ。

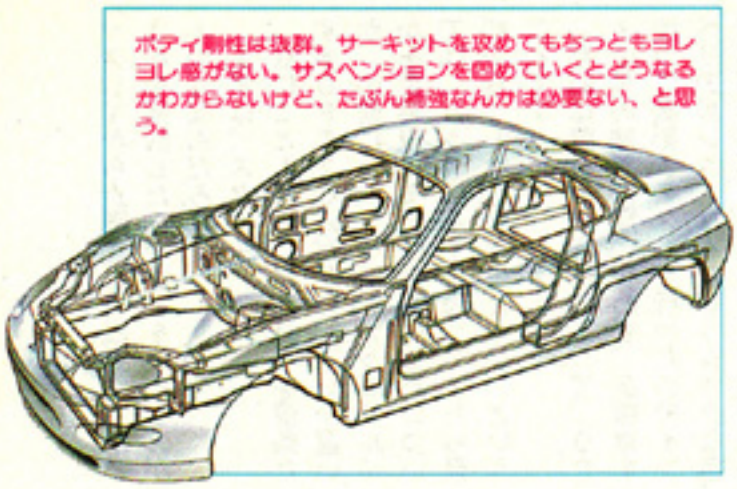
このクルマにはビスカスのLSDがついているんだけど、これもアンダーステアを助長する一因になっているようだ。ビスカスって効きが緩慢だから踏んでいてもダメだし、かといってタックインが使えるってわけじゃないから、中途半端なんだよな。

ボディ剛性はバッチリだ。「これだったらタワーバーもいらないんじゃないかな」っていうくらいにしっかりしている。でも、サンデーレースとよいえレース、万が一ってことはあるからロールゲージだけはつけるゾ。

エンジン（コンピューターもおそらくノーマルではないので、OPT2号が納車されてみないとはっきりしないんだけど）は、けっこう下からトルクがあって回転が落ちるヘアピンあたりからの立ち上がりでもグイグイ引っ張ってくれる。

ただ5000rpmから先がやはりもたつく。NAだからしょうがないっていえばその通りなんだけど、高回転をキープして走るサーキットでは、これがつらいんだよな。

そして、意外なところにあった大きな問題というのがスポーツモードATだったのだ。



ボディ剛性は抜群。サーキットを攻めてもちっともヨレヨレ感がない。サスペンションを固めていくとどうなるかわからないけど、たぶん補強なんかは必要ない、と思う。

ある程度ロールさせて曲がるというのは、こういうクルマの場合とっても大切なことだと思う。それにしてもこのアンダーステアだけはなんとかしなくちゃ……

スポーツモード4ATこそがFTO企画を思いついた原点だったのに、それが大問題になるとは……なんとも皮肉なものよの〜。

わずか3周でATフルードが沸騰！

それはスポーツモードで軽快に走行しているときにインジケーターのNが点滅しはじめたことで判明した。

コースインした周は、ゆっくりとウォーミング、タイヤを暖めてピットイン。空気圧をチェックして再びコースイン、3周目に入ったところで異変が起こった。インジケーターのNがピカピカし始めたのだ。しかし、これといって走りに変調はきたしていない。何かの警告だとは思うんだけど。

「な・なんだこれは？　どうしたというんだ？」

さっそくピットに入って向井さんに点滅するインジケーターを見せる。

「これはATフルードの温度が上がりすぎてんのとちゃうかぁ？」

「ちゃうか？　ちゃうかってことは、チャウチャウちゃうんちゃうか？」

「こりゃこの場でどうこうできる問題やないでぇ、どないしようかサイトーさん？」

「このまま走っても、すぐに壊れるって問題じゃないでしょ!?　せめてエンジンのデータがきちんと取れるまでこのまま続けましょう」

「あいかわらずムチャいいよんなぁ、サイトーさんは……ハハハ」

というわけでテストは続行したんだけど、まさかATフルードがオーバーヒートしちゃうなんて……これは完全に盲点だった。

エンジンオイルの油温とか、水温とかは気にしていたからデータロガーの温度センサーを取り付けていたんだけど、AT「ード」には温度センサーを取り付けていない。ATをベースにサーキット仕様を作るなんて試み自体が初めてのことだもんな。

そんなこんなで一応のデータ採集は完了。クルマのデータのほかに、マッキーとサイトーのドライビングの違い（もちろんマッキーのほうが2秒も速い）なんかもわかったりして、とっても実りあるテストだったと思う。

最後に今回集めたデータの中からみんなが見て、わかりやすいものをいくつかを公開しておこう。

①ベストラップ
2分01秒82
——2分を切るのが目標だったのでちょっとがっかり。

②裏ストレート最高速スピード
168・44km/h
（4th　7142rpm）
——思ったより速い。

③インジェクター開度
72%
——まだまだ余裕ありってこと。

④最高水温
100・7度
——けっこうギリギリ。気温の低い時期でこれだから、夏場には問題になりそう。